

米国による過激な関税政策に対する動揺が世界中に広がっています。医療機器についても例外にはなっていないため、影響と対応策についての議論がさかんになっています。日本の医療機器産業は、長年にわたり大幅な輸入超過であると指摘され、その改善が課題であると言われ続けていますが、その実態を定量的に把握することは実は簡単ではありません。今回は、貿易に対する関心が高まっている状況を受けて、改めて医療機器の輸出・輸入についての基礎データを確認してみたいと思います。

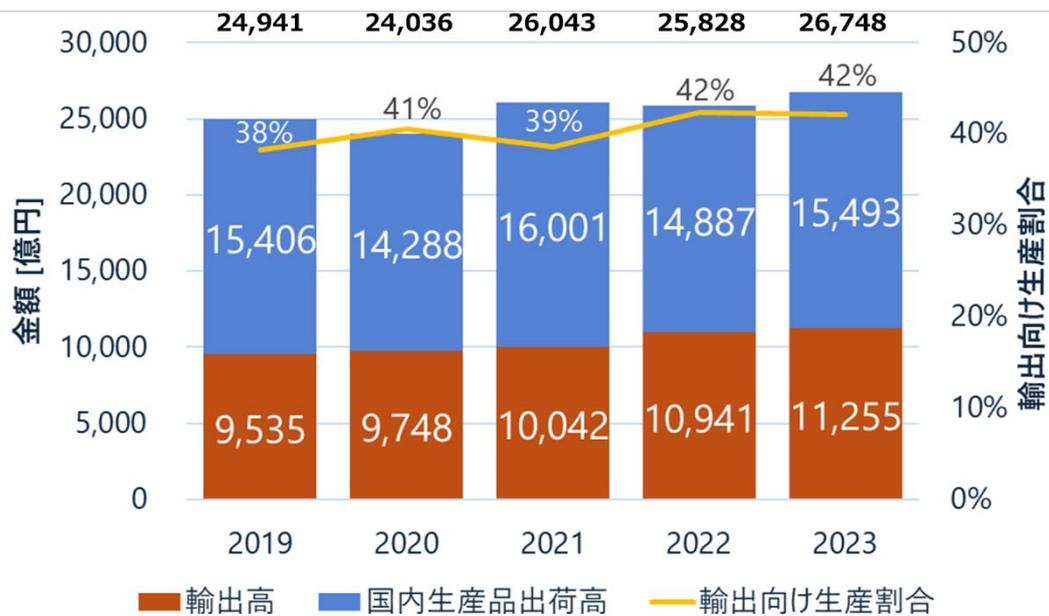
まず、日本の市場における国内生産品と輸入品との割合について見てみます。図1は薬事工業生産動態統計調査¹⁾(以下、薬動という)の年報からのデータです。この調査は、厚生労働省が基幹統計として実施しているもので、すべての製造販売業者は、決められたデータを毎月報告する義務があります。従って、データの悉皆性が確保されているとの観点からも、信頼して参照できる統計データであると言えます。一方では、統計としての特徴についても良く理解した上でデータを使う必要があるのは、すべての統計について言えることであり、薬動は信頼性が高いだけに誤った使い方とにならないよう、十分な注意も必要です。薬動の誤った使い方の典型例が、輸出と輸入の数値比較²⁾をすることですので、薬動だけを根拠に輸入超過を論ずることは適切ではありません。本稿では、そのような点にも十分注意しながらご紹介したいと思います。



[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図1 国内市場に投入される国内生産品／輸入品の割合

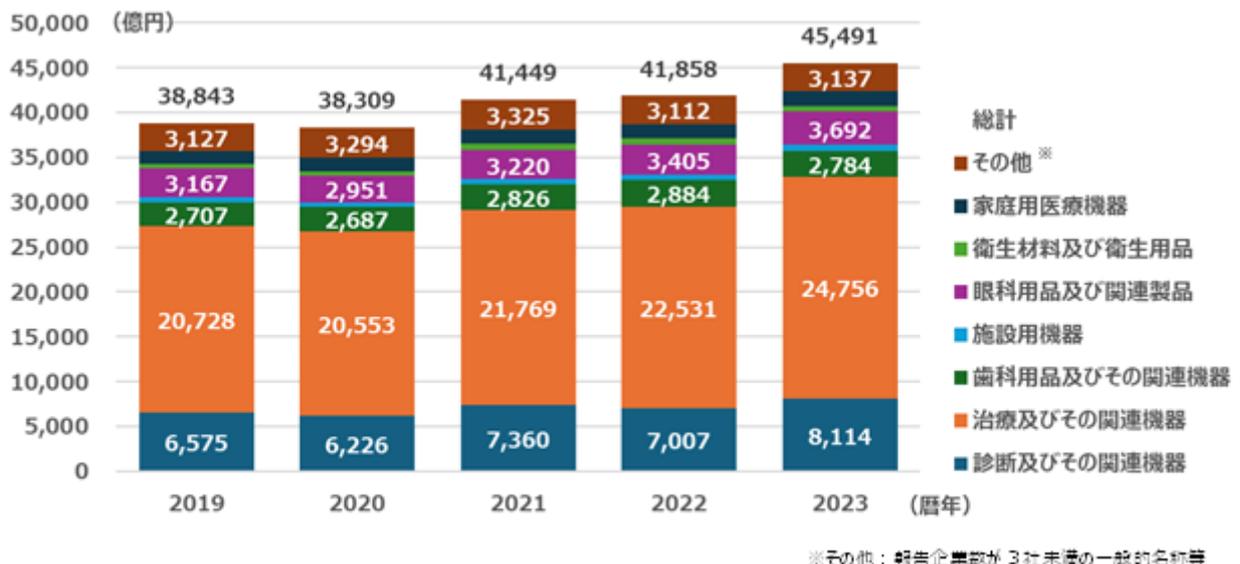
図1からは、製造販売業者において出荷判定が済み国内市場に投入される国内生産品の割合は、2019年の37%から2023年では32%に低下していることが分かります。すなわち、国内市場の約2/3が輸入品で占められていることとなりますが、内12%程度は逆輸入であることにも注意が必要です。ここで、「国内市場に投入される」と表現したのは、ここに示したデータには、在庫高の変動や廃棄等の影響は考慮されていないためです。例として2023年では、図1の国内生産品と輸入品との合計値は約4兆8千億円となっていますが、後述する実際に国内に出荷された金額(約4兆5千億円)とは差があることに注意が必要です。また、ここでの輸入高は、通常の意味である「輸入した金額」ではなく、「輸入した製品を国内で販売した金額」と定義されている²⁾ ことにも十分注意する必要があります。すなわち、輸入後に国内に必要な流通の費用や利益などが入った金額になっていますので、実際の輸入額とは大きな差があることを理解する必要があります。



[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図2 国内生産品の国内出荷／輸出の割合

図2は、国内生産品の仕向け地(国内／輸出)別の割合を示しています。輸出向け生産割合は40%前後(38.2%～42.4%)で、微増傾向であることが分かります。なお、図2の青で示す数値は図1の青の数値と同じものです。



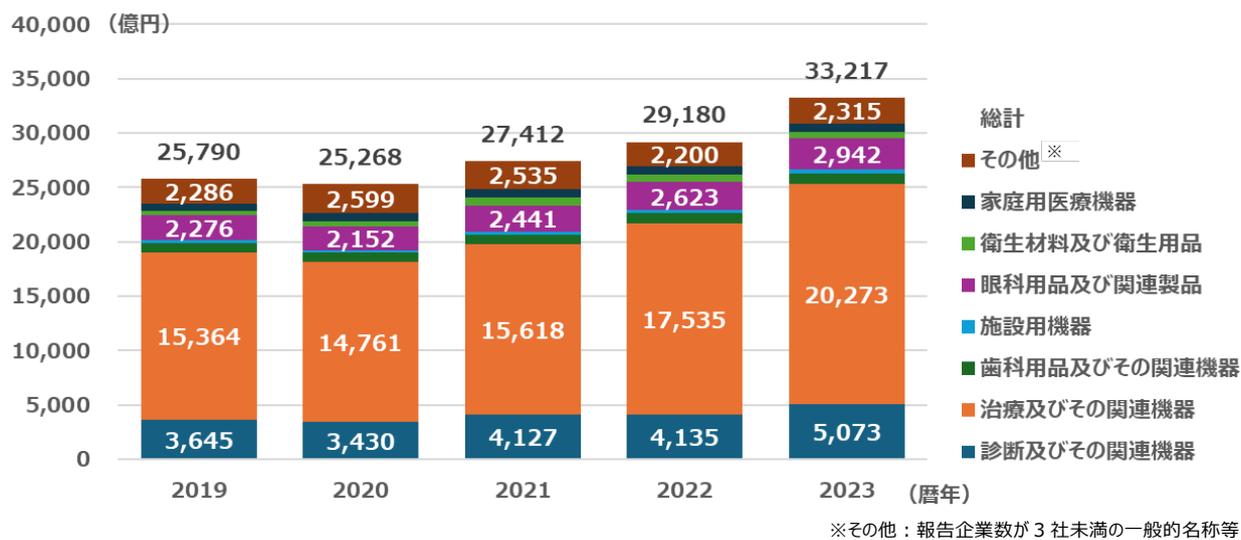
※その他：報告企業数が3社未満の一般的名称等

[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図3 国内市場(製品カテゴリー別内訳)

次に、国内市場における製品カテゴリー別の状況を図3に示します。治療及びその関連機器が5割程度、診断及びその関連機器が約2割を占めていることが分かります。なお、こちらは実際に市場に出荷された額を示していますので、前述のように図1の値とは差があることにも注意が必要です。また、ここで示す製品カテゴリー別の情報は現在の薬動で直接公開されているものではなく、2018年までの薬動や同じ厚生労働省が実施している一般統計である医療機器産業実態調査で現在も使用されている分類を使用しています。分類についての詳細は、医機連ジャーナル第119号掲載のMDPROリサーチ³⁾を参照してください。

図4は、図1において緑色で示した輸入高について製品カテゴリー別の内訳を示しています。前述のようにこの統計における輸入高は「輸入した製品を国内で販売した金額」と定義されていますので、輸出高と絶対値を比較することは適切ではありません。使用した分類については図3と同様です。治療及びその関連機器が60%前後と際立って大きく、続いて、診断及びその関連機器が15%前後となっていることが分かります。

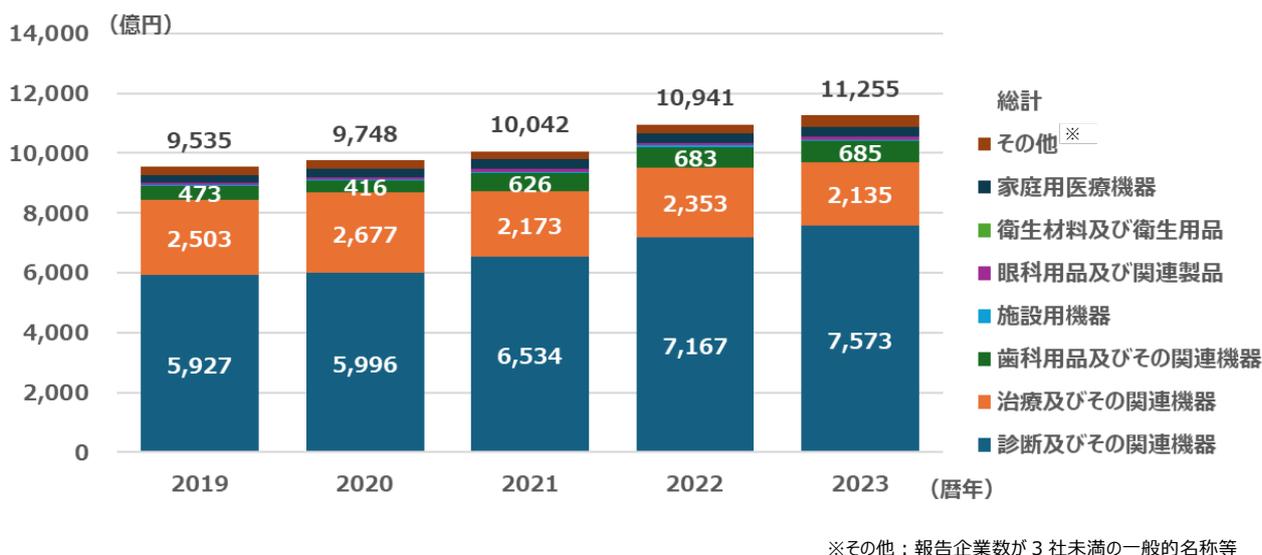


注：本統計の「輸入」は「輸入品の国内出荷高」を示すため、輸出額と輸入額を比較することは適切でない

[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図4 輸入高の製品カテゴリー別内訳

次に、輸出の状況を確認します。図5は、図2において茶色で示した輸出高の製品カテゴリー別の内訳を示しています。使用した分類については図3と同様です。診断及びその関連機器が65%前後、治療及びその関連機器が20%前後となっており、輸入とは傾向が大きく異なることが分かります。

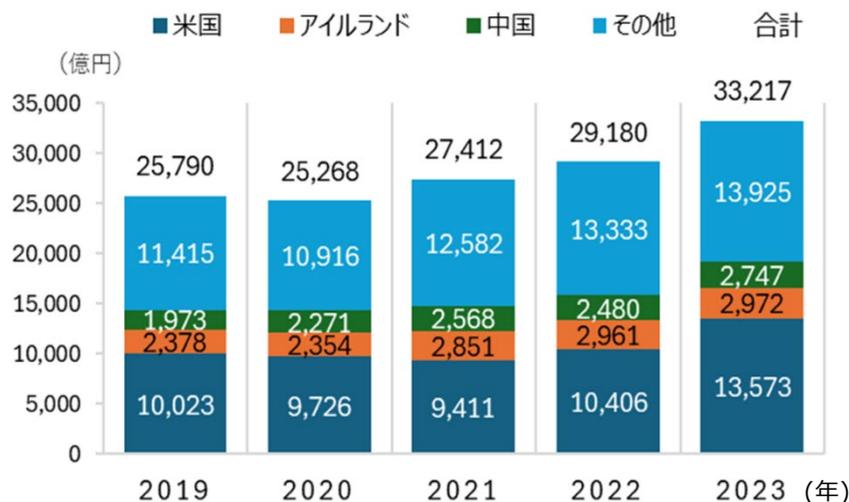


[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図5 輸出高の製品カテゴリー別内訳

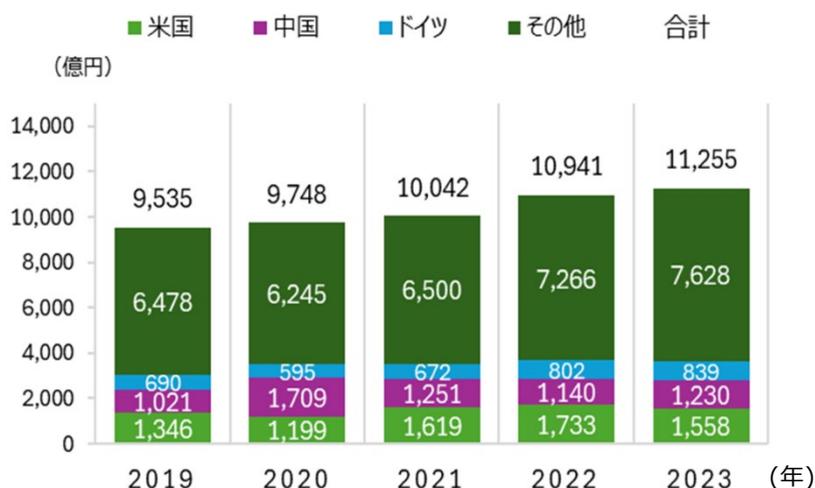
さらに、輸入元及び輸出先として金額の多い国・地域について確認します。

輸入元は、米国、アイルランド、中国の順となっています(図 6)。また、輸出先については、中国が 1 位であった 2020 年を除き、米国、中国、ドイツの順となっています(図 7)。



[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

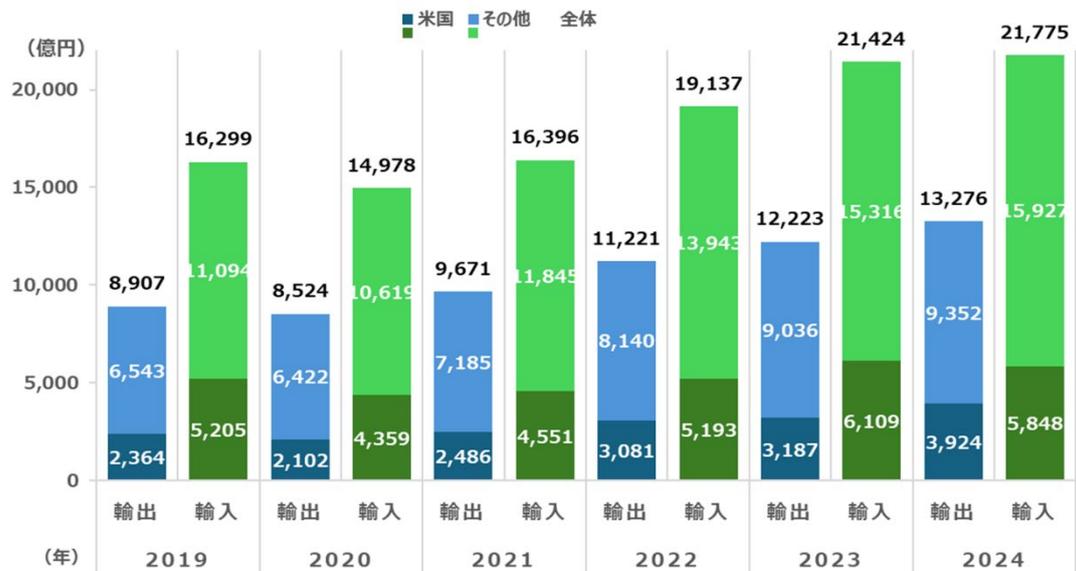
図 6 輸入高(輸入品国内出荷高)国・地域別割合



[出所] 厚生労働省 薬事工業生産動態統計調査より医機連 MDPRO 作成

図 7 輸出高 国・地域別割合

ここまで、薬動を使って、輸出・輸入のデータを確認しましたが、説明の中で何度も「薬動は輸出入の比較には適さない」と述べてきました。貿易の観点から医療機器を含む物品の輸出入の状況を見るためには、まず財務省の普通貿易統計⁴⁾の確認が基本になると考えられます。一方、貿易で用いられる HS コード(Harmonized System Code)では医療機器が明確に定義されていないため、医療機器の輸出入について直接的に確認することは困難ですが、MDPRO では、これまでも、医療機器として抽出する HS コードを検討しながら普通貿易統計を使った分析を行ってきています^{5) 6) 7)}。今回も、これまでの例に倣い、医療機器を可能な限り網羅的に拾い上げることができるよう HS コードを選択し、輸出入の近年の状況について、注目される米国の状況と併せて確認しました(図 8)。今回抽出した HS コードの集計では、2024 年で約 8,500 億円の輸入超過となっていることが分かります。



抽出したHSコード一覧

300510,300590,300610,300640,300691,340700,370110,370210,401410,401512,611510,701510,841920,900130,900140,900150,900490,900630,901811,901812,901813,901819,901819,901819,901819,901820,901831,901832,901839,901841,901849,901850,901890,901910,901920,902000,902110,902110,902121,902129,902131,902139,902140,902150,902190,902212,902213,902214,902219,902221,902290,902230,902290,940210,940210,940290,900490,

注：HSコードには医療機器としての明確な分類が存在しないため、極力もれが出ないようにすべく別記を抽出した

[出所] 財務省 普通貿易統計より医機連 MDPRO 作成

図 8 貿易統計による医療機器関係の輸出入

なお、今回取り上げた薬動と貿易統計について、医療機器の輸出入データを見る時に注意すべき特徴の一部を表 1 にまとめて示します。これらの点に注意しながら、医療機器の輸出・輸入についての基礎データを確認する必要があると考えています。

表 1 薬事工業生産動態統計と普通貿易統計の比較(医療機器について)

	薬事工業生産動態統計	普通貿易統計
対象	医療機器	すべての物品
報告義務者	製造販売業者	輸出入業者
分類	一般的名称(JMDN コード)	HS コード
価格	製造販売業者が連結対象外に販売した価格	税関への申告価格
特徴	医療機器として出荷判定をしたものだけが対象	医療機器に加え、完成品でない部分品や付属品を含む
	JMDN コードとしての定義が明確	HS コードには医療機器をすべてカバーする分類が存在せず、関連する複数の HS コードを参照することとなり、医療機器以外も混在したデータとなる
	製造販売業者が輸出向けと認識していれば輸出に計上されるが、不明の場合は国内出荷に分類される	輸出入業者(業態は問わない)による申告
	輸入高は輸入した製品を国内で販売した額として定義されている	輸出入の取引金額

[出所] 筆者作成

今回は、医療機器の輸出や輸入に関する基礎データとしての薬動と普通貿易統計を改めて確認してみました。これらの基礎データから産業の実態を理解することが重要ですが、貿易に対する関心が高まっている今だからこそ、各種統計等の特徴を正しく理解し、実態についてのデータを冷静に確認することが重要であると考えます。

MDPRO では、引き続き医療機器産業に関する各種基礎データについて整理し、情報発信を続けていきたいと考えています。

◇出典:(URL は 2025 年 6 月 8 日時点)

- 1) 厚生労働省, 薬事工業生産動態統計調査 : 調査の概要
< <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/105-1e.html#list01> >
- 2) 厚生労働省, 薬事工業生産動態統計調査 : 利用上の参考事項「8. 輸出入の数値についての注意事項」
< https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?stat_infid=000040237454 >
< <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000040233421&fileKind=2> >
- 3) 平井祐治,「薬事工業生産動態統計調査を活用した市場分析」, MDPRO リサーチ, 医機連ジャーナル第 119 号, 2022 年 10 月 25 日
<
https://www.ifmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2022/10/12_journal119_MDPRO_%E8%96%AC%E4%BA%8B%E5%B7%A5%E6%A5%AD%E7%94%9F%E7%94%A3%E5%8B%95%E6%85%8B%E7%B5%B1%E8%A8%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%82%92%E6%B4%BB%E7%94%A8%E3%81%97%E3%81%9F%E5%B8%82%E5%A0%B4%E5%88%86%E6%9E%90-1.pdf >
- 4) 財務省, 普通貿易統計
< <https://www.customs.go.jp/toukei/search/futsu1.htm> >
- 5) 青木信宏,「普通貿易統計 2020 年 1~8 月の医療機器輸出金額調査」, MDPRO ミニコラム, 医機連通信第 280 号, 2020 年 10 月 15 日
<
https://www.ifmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0_20201015_%E7%AC%AC280%E5%8F%B7.pdf >
- 6) 小濱ゆかり,「普通貿易統計 2020 年 1 月~2021 年 8 月の医療機器輸出入状況」, MDPRO ミニコラム, 医機連通信第 292 号, 2021 年 10 月 15 日
<
https://www.ifmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0_20211015_%E7%AC%AC292%E5%8F%B7.pdf >
- 7) 戸部真理子,「アフリカにおける医療機器産業の展開に関する一考察」, MDPRO リサーチ, 医機連ジャーナル第 123 号, 2023 年 10 月 26 日
< https://www.ifmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2023/10/journal123_Africa.pdf >

(医療機器政策調査研究所 久芳 明 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ [@JFMDA_MDPRO](https://twitter.com/JFMDA_MDPRO)
X(旧 Twitter)で医療機器産業関連のニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。